

ものづくり人材育成

生産現場のものづくり力を高めるには、技能職一人ひとりの技能向上が欠かせません。そのため、「技能重視の風土の醸成」を基本方針とし、さまざまな施策に着手しました。

管理監督者については、強靱なものづくりをリードするために、製造現場を監督する力に加え、自身の専門技能も求められます。そこで監督者育成の場として、「専門技能伝承道場」を、各領域に順次立ち上げ、監督者の育成を図っています。

2019年には美和技術センターに「設備保全道場」を立ち上げ、設備保全員の早期一人前化をねらいに、座学と実技とともに学べる教育カリキュラムを整備しました。また、金型保全員の育成のため、西溝口工場に「金型保全道場」を設置し、2014年度から研修を開始。保全技能の基礎をしっかりと固め、レベルアップに取り組む仕組みを定着させました。

2017年度から、技能五輪への挑戦をはじめ、手探りでの選手育成のなか、2018年に初の全国大会出場、2019年には敢闘賞を受賞しました。参加して2年目の会社が入賞するのは異例の快挙で、ものづくりの人材育成に確かな手応えを感じる結果となりました。



保全技能伝承道場での実習風景

災害「ゼロ」を目指して活動を推進

当社では、社長が全社総括安全衛生管理者として全拠点を通括し、「安全人づくり」と「安全職場づくり」の両輪で災害「ゼロ」を目指しています。

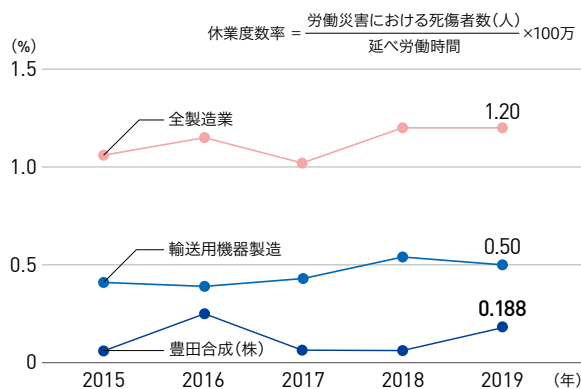
「安全人づくり」においては、2019年度も「階段の手すりを持つ」「止まれ箇所での一時停止・左右確認」を、立哨活動などを通じてルール維持・定着の向上に努めてきました。



立哨

「安全職場づくり」活動においても、重篤な災害(STOP7)につながる高リスク設備の安全化を目指し、逆KY(危険予知)の考え方を踏まえ作業のリスクアセスメントを行い、対象設備を洗い出し優先順位を明確にして対策を推進してきました。

労働災害発生率(休業度数率)の推移

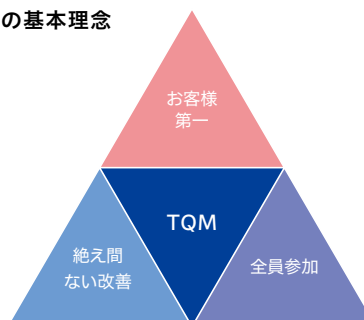


グローバル統一の品質保証

品質基本方針のもと、開発から生産まで一貫して品質を保証しています。全拠点で品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」「IATF16949」の認証を取得。TQM^{※1}の基本理念に基づき、拠点ごとに品質目標を立てて生産を行っています。また品質向上のノウハウやルールを盛り込んだ「品質システムグローバルスタンダード」を用いてグループ全社で品質を確保しています。

※1 品質向上のために“お客様第一”を基本に“絶え間ない改善”と“全員参加”により「品質・仕事の質」や「人と組織の活力」を高める活動 (Total Quality Management)

TQMの基本理念





製造工程での品質確保と品質問題への対応体制

クルマの基本性能(走る・曲がる・止まる)を支え安全に直結する部品(保安部品)の生産工程を中心に自工程完結^{※2}を進めています。世界のお客様から「品質の豊田合成」と評価いただけるよう、全拠点で「品質安心宣言活動」^{※3}を推進。自動化^{※4}による「不良をつくれなく・流さない“工程づくり”」と、品質に対する感性を高めて「ミスをしなく“人づくり”」の両輪で品質向上に取り組んでいます。さらに国内外の全工程で専任監査員による監査・改善を行っています。

市場で品質問題が発生した場合は、自動車メーカーからの情報に基づき速やかに原因を調査して、再発防止策を実行で

きる体制を確立しています。また、原因究明・解決が自社だけでは困難な場合は、テスト車両による検証などに基づく確かな再発防止策を自動車メーカーの品質部門とともに講じ、以降の製品の品質不具合を未然に防止しています。

- ※2 各工程で品質確保に必要な行動を全て行うことにより、工程内で品質をつくり込み、後工程に不良を流さないようにすること
- ※3 全員参加による品質改善の取り組みのこと。製造工程の全ての係が「人づくり」と「工程づくり」の両輪で品質改善を実施。目標とする品質を確保できる仕組みができ上がった段階で、各係長が会社トップに対し「安心宣言」を行い、トップ自身が現地現物で監査する
- ※4 機械設備の異常や、品質の異常、作業遅れなど何らかの異常が生じた際に、機械設備が自ら異常を検知して自動で停止するか、技能員(作業員)自身が停止スイッチを押すかして、ラインを止められるようにすること

サプライチェーンマネジメント

調達基本方針のもと、サプライヤーの皆さまとパートナーシップを深めながら、持続的な成長とともに目指しています。

調達基本方針

1. グローバル最適調達

当社は、原材料、製品、設備等を、コスト・品質・技術・生産を考慮しながらグローバルな観点で最適なものを公正に調達しています。

また、サプライヤーからの新技術・工法、新商品等のご提案を歓迎しています。

2. 相互信頼に基づく相互発展

当社はサプライヤーとのオープンで対等な関係を基本に、互いに企業体質の強化・経営の革新に努め、相互信頼関係を築くことで、TGグループの総合力の向上を目指しています。

3. ESGへの取り組み

当社はESGの取り組みをサプライヤーと共有し、TGグループとして環境保護・社会的責任遂行・ガバナンスの徹底を目指しています。

また、サプライチェーンを含めた企業活動における法令遵守、機密保持の徹底を図っています。

サプライヤーとのパートナーシップの強化

毎年4月にサプライヤー約200社への「調達方針説明会」を開催し、経営理念や事業環境、会社方針を説明し、安全・コンプライアンス・品質・生産・原価に関する取り組みと目標を共有しています。また、各分野で功績を上げていただいたサプライヤーへの表彰を実施しています。さらに年4回、サプライ

ヤー約100社との「調達連絡会」を開催し、生産情報や品質・コンプライアンス・安全などの情報を共有に加え、人材育成・事業継承等のセミナーを開催するなど、サプライヤーとのパートナーシップの強化を図っております。



調達方針説明会



経営課題のセミナー／協定会